

新聞をめくりながら「福」の漢字を探す児童たち＝21日、勝山市荒土小



児童 新聞から「福」探し

勝山・荒土小 漢字成り立ち、字体学ぶ

白川文字学とNIE(教育に新聞を)をコラボ。勝山市荒土小で21日、新聞記事の中から漢字を探し、成り立ちや字体の違いを学ぶ授業が行われた。児童たちは新聞を入り口に漢字に対する興味を深めていた。

白川文字学とNIE(教育に新聞を)をコラボ。勝山市荒土小で21日、新聞記事の中から漢字を探し、成り立ちや字体の違いを学ぶ授業が行われた。児童たちは新聞を入り口に漢字に対する興味を深めていた。



県教委の小中学力向上事業の一環で、立命館大白川静

久保さんはまず、約2千年前の隷書や、約2300年前の篆書で書かれた「福」の文字を紹介。左の「しめすへん」は神様をまつるときに使う机で、右側の「畠」はお酒の入った器を示すことから「神様に酒樽を供え、お祈りして幸せを求めることを福」といって触れ「これから新聞を作

ったり、読んだりするとき、内容だけでなく、字体にも関心を持ってください」と呼びかけた。

「福」の字を見つけた。久保さんはまず、約2千年前の隷書や、約2300年前の篆書で書かれた「福」の文字を紹介。左の「しめすへん」は神様をまつるときに使う机で、右側の「畠」はお酒の入った器を示すことから「神様に酒樽を供え、お祈りして幸せを求めることを福」といって触れ「これから新聞を作

この日は、1、2年生対象に、校舎内を巡って古代文字のもとになったものを探すが、ゲームも行った。児童たちは、音楽の「楽」のもとになった「鈴」を見つけると、歓声を上げていた。久保さんは「習っていない漢字でも拒否反応を示さず、意欲的に取り組む姿から、福井における白川文字学の広がりを実感した。低学年では新聞をじっくり読

(宇野和宏)